

平成 28 年度の主な事業報告

社会福祉法人藤枝すみれ会

社会福祉事業

東部すみれの家（生活介護）

利用者の重度・高齢化に伴い、利用者の視点に立った動線確保、物の置き場などの安全で安心な環境の確保や、季節に即したイベントの企画、定期的に行う調理、毎日の体操や時事記事の読み聞かせなど心身を整え、知的好奇心を満たせるサービスの提供に努めてきました。

- ・変化を伴う個々の身体状況に応じた「移動介助」「排泄・排尿介助」「食事介助」に努めました。また、女性用トイレの段差を無くし手すりをつける改修も行いました。
- ・地域で企画されているイベントにはグループに分け、希望者や個別支援計画に沿って参加を促すと共に、事業所側からも、音楽教室を通してハンドベル演奏や創作品をメモ帳やバンダナに加工して紹介するなど社会に利用者の頑張りを発信してきました。
- ・生産活動では下請け作業受注に加え、自主製品（機織り、紙漉きなど）の研究開発に努めてきましたが、藤枝市役所の優先調達に機織り製品「リボン」が採用されました。

西部すみれの家（就労移行・就労継続B）

新設して2年目を迎え、作業工程を見直し生産性を高めること、また自主製品を通して、地域とのつながりを深めることを課題にして取り組んできました。

- ・就労移行では就労訓練として年度途中から取り組んでいる施設外での作業が、利用者の働く意欲を高めることに繋がりました。
- また、平成28年度に就職した1名と平成27年度に就職した3名について、会社訪問や電話で話を聞く等の定着支援を継続して行った結果、定着が図れています。
- ・就労継続B型では作業分析を行い、1人ひとりのできる力をのばし生産性を高めることができ、目標工賃を達成することができました。
- また、自主製品焼き菓子製造は、地域の行事への積極的な参加、定期的な販売、新商品の開発を通して注文も増え、西部すみれを家の焼き菓子として定着してきています。

南部すみれの家（生活介護・就労継続B）

生活介護、就労継続B型の2サービスの多機能型事業所として、多様化している利用者の状態に合わせた個別の対応や環境への配慮に重点を置きながら支援を行ってきました。

- ・生活介護では健康面や体調面への配慮をし、班分けによる散歩や外部講師による体操教室、必要に応じて個別の体調管理や運動を行い健康管理に努めた結果、高い稼働率に繋がりました。

した。また、季節に合わせた作品作りや調理実習、外出など生活を豊かにする活動の充実も図れました。

日中一時支援事業では藤枝市だけでなく、8月より焼津市とも契約をし、ご家族の負担軽減に努めました。

- ・就労継続 B 型では新しい企業の下請け作業を行い、個々に合わせた治具を作成して関われる仕事の幅を広げていき、自信へと繋げていくことが出来ました。NEXCO 中日本より草刈り作業を請け負い、外で働く経験と工賃アップにも繋がりました。園芸作業は育てた野菜などを南部すみれまつりや公民館まつり、共生フェスティバルなどで販売し、地域の方々との交流にもなりました。

北部すみれの家（生活介護・就労継続 B）

生活介護、就労継続 B 型の 2 サービスの多機能型事業所として、多様化している利用者の状態に合わせた個別の対応や新しい自主製品（マスク・ネッククーラー）の改良を図りながら販売促進をしていくことなどを課題にして取り組んできました。

- ・生活介護では、健康状態や身体機能の維持向上を目指し、朝の散歩をはじめ、月 2 回少人数のグループ分けで行うスポーツ教室等の体力作りの実施により運動が苦手な方も少しずつ体を動かすようになってきました。また、週一回の送迎サービスも定着し 29 年度は送迎希望者が増え毎日実施することになりました。
- ・就労 B では、一人ひとりの得意な分野を生かすことで生産性の向上に図ることができ、新しい作業や苦手なことも補助具を使ったり繰り返し行ったりするなかで作業の幅が広がり進歩することができました。自主製品は、ネッククーラー・マスクの売り上げは新しいデザインや柄を取り入れたことで好調でしたが、利用者が関わるのが少なく限られてしまうため 29 年度は、ミシン・ステンシル訓練を通して利用者のできる幅を広げていきます。